



フクシマ 5 年の今

—子どもたちの命と健康を守る—

～チェルノブイリ 30 年に学ぶ ●保養の経験 ●避難者の声～

3 月 5 日(土)12:00～9:00

ひとまち交流館京都 大会議室 (市バス「河原町正面」東側)

●参加費:1000 円(時間中出入り自由)★避難されている方:500 円 ★高校生以下:無料
(保育 **要予約**) 090-1248-3321 佐竹)



■プロローグ (12:00～1:30) ●DVD「福島いま・日本いま」(講演・小出裕章 博愛社 2015.2 収録)

■第 1 部「保養・避難について」(2:00～5:30)

- DVD「ベラルーシのこども 京都での受け入れ」(チェルノブイリ連帯基金京都 1992 記録)
- DVD「チェルノブイリ・28 年目のこどもたち I 低線量長期被曝の現場から」(製作 OurPlanet-TV)

■保養の取り組みから

- まつもと子ども留学基金(松本) ●シェアハウス やすらぎの泉(岡山)
- びわこ☆1・2・3 キャンプ(滋賀) ●元気いっぱい びわこ キャンプ(滋賀)
- ゴー!ゴー! ワクワク キャンプ(京都) ●「丹後の海(たんごのかい)」(京都)
- 心援隊(大阪)



■ウクライナダンス・寺田バレエ アートスクール

■休憩 5:40～ DVD「チェルノブイリ・28 年目のこどもたち II いのちと健康を守る現場から」(製作 OurPlanet-TV)

■第 2 部「避難者の声を聴く」(6:30～7:30)

- 避難者の声を聴きあいましょう(避難者の皆さんのリレートーク)

■第 3 部「福島原発事故による健康被害にどう向き合っていくのか」(7:30～9:00)

- お 話 阪南中央病院副院長 村田 三郎 先生
～ 会場からの質問に答えて ～

同時開催 鉄道写真展—東北を旅して(その8)

3 月 4 日(金)～11 日(金)10:00～5:00(5日は夜 9 時まで)

ひとまち交流館京都 1 階 展示コーナー (●フクシマ・避難者の声コーナー ●DVD 上映)

協力:同志社大学鉄道同好会OB会 クローバー会

主催:日本チェルノブイリ連帯基金京都 (075-591-7772 馬庭)
鉄道展-東北を旅して実行委員会 (090-1248-3321 佐竹)



村田三郎（阪南中央病院 副院長 内科医師）

原爆被爆者の健康診断や診察・実態調査、水俣病患者の検診と診断意見書作成をおこなってきた。
福島原発周辺の労働者の実態調査にも医師として参加され、長年多数の被ばく労働者の診療にあたり、労災認定に尽力してこられた。JCO 臨界事故の健康被害訴訟では法廷で証言。現在避難者の検診もされている。著書「福島原発と被曝労働」（明石書店 2013 年共著）映画「あしたが消える どうして原発？」（1989 年）に出演

DVD ●「福島のいま・日本のいま」(97 分) 講演 小出裕章

(2015.2.7 児童養護施設博愛社創立 125 年記念講演会収録)
sandri2014@gmail.com
●「チェルノブイリ・28 年目のこどもたち」
I 「低線量長期被曝の現場から」(43 分)
II 「いのちと健康を守る現場から」(33 分)
制作・取材 OurPlanet-TV 白石 草 ☎03-3296-2720
E:info@ourplanet-tv.org <http://www.ourplanet-tv.org>

NPO 法人 まつもと子ども留学基金（松本）

東日本大震災の被災地の子どもたちが放射能汚染の無い環境で安心して生活して、遊び勉強する場所づくりを目指して、自然豊かな信州松本・四賀の地で留学プロジェクトを立ち上げました。
〒330-0861 長野県松本市蟻ヶ崎 1-3-7
安藤法律事務所内 理事長植木 宏 ☎080-4716-2011
matsumoto.relief@gmail.com
http://www.kodomoryugaku-matsumoto.net/?page_id=89

やすらぎの泉（岡山）

2011 年 7 月に岡山県の和気町の古民家で「おいでんせ岡山」と「日本基督教団和気教会」の協力でスタートした母子の保養のためのシェアハウス。母子の気持ちに配慮したルールも工夫され、2015 年 9 月までに約 160 組の母子を迎え入れ、内 50 組が近隣へ移住されているそうです。妊婦さんの保養など、ケアが必要な人も受け入れてくださり、東日本に暮らす母子の希望の場所のひとつとなっています。<http://wake-yasuragi.jimdo.com/>

ゴー！ゴー！ワクワク キャンプ（京都）

2011 年発足、約 1 か月間の夏季キャンプを中心に、これまでに計 7 回の保養キャンプを開催。古民家で大家族のように生活する。これまでの活動については、以下をご参照ください。
<http://55wakuwaku.jugem.jp/>
55wakuwakucamp@gmail.com

ふくしま・こども キャンプ「丹後の海(かい)」(宮津)

日本海に面した田舎で、海・山・川と温泉、自然体験を生活の一部にしながらキャンプを実施しています。水がとて美味しいので料理もご飯も美味しく炊けます。児童養護施設の子ども達と付添の職員の方を毎年夏にお呼びしています。1 家族単位の受入など、現地受入団体や個人の方達の輪の広がりが出来ればと思っています。 E: tapqc775@ybb.ne.

びわこ☆1・2・3 キャンプ（滋賀）

福島原発事故による放射能汚染の影響を受けている地域に暮らす子供たちを、学校の長期休みを利用して滋賀に招いて、自然体験をさせるとともに、健やかな成長を目指して寄り添う、合宿型のキャンプです。<http://www3.hp-ez.com/hp/biwako123/page4>

元気いっぱい びわこ キャンプ（滋賀）

2011 年夏から始め昨夏で 6 回目のキャンプを開催(2012 年は春も)。やって来るのは福島県と宮城県南部の子ども達約 15 名。5 泊 6 日で琵琶湖での水遊びが好評。
kobekinsuku@yahoo.co.jp ☎090-7887-8928(神代)

心援隊（大阪）

「とにかく子ども守りたいねん！」この思いを胸に震災直後から活動、春・夏・冬の休みに一週間程度の「疎開・保養プロジェクト」を開催。様々な企画を準備し、子ども達は元気いっぱい遊び、親御さん達にはリラックスして思いを吐き出してもらったり、情報を集める時間などを作ります。移住相談等も行っていきます。
<http://www.shinentai.net/>

寺田バレエアートスクール

京都市とキエフ市は姉妹都市、それを縁に寺田バレエアートスクールとキエフバレエ学校も姉妹学校。'86、キエフでのバレエ研修帰国直後にチェルノブイリ事故。校長はキエフの多くの方々の安否を気遣い、急遽お見舞いに戻った。東日本大震災・原発事故の 2011 年は、姉妹都市盟約 40 年。キエフ訪問では慈善コンサートなど悲しみと同情と鎮魂の日々となり友好は一層深まった。

認定 NPO 法人 日本チェルノブイリ連帯基金(JCF)

1991 年 1 月松本市で設立。チェルノブイリ事故の放射能被災地へ主に医療を中心に支援活動を展開。ベラルーシの子供達を保養と医療検診に招待した。福島第 1 原発事故直後から緊急医療支援、外部被曝線量測定、子供達の検診や環境線量測定、食品汚染測定等を続ける。「京都」の活動は 21 年前よりチェルノブイリ京都実行委員会に参画し集会を行ない、現在はチェルノブイリ・フクシマ京都実行委員会に加わり、今年は 4 月 3 日に集いを行う。
理事長・鎌田 實 E: asama@jcf.ne.jp ☎0263-46-4218

鉄道展一東北を旅して・実行委員会

1992 年にチェルノブイリ連帯基金の趣旨に賛同し、特別列車をチャーターし、ベラルーシからの子供たちの保養プログラムに参加した。その後その子らを訪ねて現地に行き、又ベラルーシにおける菅谷医師の治療を取材した。3.11 の衝撃を受け、その延長線上に当会は発足した。東日本大震災・原発事故以来、崩壊した鉄道路線の復興を願い、東北を忘れないという視点で、昔の東北の鉄道写真展を京都市内で 7 回開催し、その期間中、「祈念のつどい」を開催してきた。